



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール経済：2012年の一人当たりのGDPが10万ドルを超える見通し (11日付現地各紙)

11日付現地各紙は、カタールの2012年の一人当たりのGDPが10万ドルを超えるとの見通しを伝えている。

1. カタール・ナショナル・バンク・キャピタルは、「カタール経済インサイト 2011年9月レポート」において、カタールの2010年の名目GDPが前年に比べ30%上昇し、4630億カタール・リアル（1270億ドル）に達したことを明らかにした。これは、湾岸諸国全体のGDPの12%を占め、湾岸諸国中4番目の経済規模となる。カタールの一人当たりのGDPは、2010年に75,000ドルとなり、湾岸諸国中最も豊かな国となった。

カタール・ナショナル・バンク・キャピタルは、原油価格の上昇やガス生産量等の増加により2012年まで一人当たりのGDPが10万9,000ドル程度に増加すると予測している。また、2010年の購買力平価をベースとした一人当たりのGDPでは、カタールは88,559ドルとなり、ルクセンブルグを抜いて世界で最も豊かな国となった。他方、市場取引における為替レートをベースとした2010年の一人当たりのGDPは、ノルウェー、ルクセンブルクに次いで、カタールは第3位であった。

2. 「カタール経済インサイト 2011年9月レポート」は、ガス関係の輸出増およびエネルギー価格の上昇が名目GDPの増加に大きく寄与しているとしている。原油およびガス分野のGDPに占める割合は、2010年で52%に達している。LNGの多くは長期供給契約に基づき供給されており、長期供給契約によるガス価格は原油価格に連動している。よって、原油価格はカタールの名目GDP増加の牽引役となる。カタールの原油価格の平均は、2009年の62ドル/バレルから2010年には78ドル/バレルに25%上昇している。これは、さらなるLNGの生産増と相まって、2010年の名目GDP 30%増の主要な要因となっている。